

白雲館

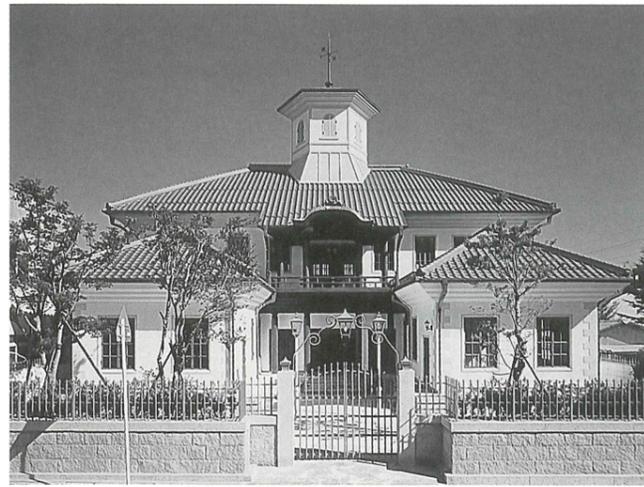
明治10年に八幡東学校として建築された白雲館は、当時のお金6千円（現在で換算すると約1億2千万円！）で設立されたもので、貴重な擬洋風建造物です。

近江商人が子どもの教育充実に図るためその費用の殆どが寄付で賄われました。

現在は観光案内所とギャラリースペースが設けられ観光情報の提供や、喫茶、お土産や特産品も展示販売されています。

また、2階のギャラリースペースでは、市民ギャラリーとして様々な催しが常時開催されており、人々が絶えず訪れる憩いと近江八幡の魅力発信の拠点となっています。

※2Fスペースは借用可能。
お問合せは近江八幡観光物産協会へ。
TEL 0748-32-7003



【白雲館の歴史】

- 明治10年 建築落成
- 明治26年 本校舎新築のため学校の役割を終える
- 明治28年 八幡町役場
- 明治33年 蒲生郡役所
- 大正11年 建物の一部が八幡町信用組合が使用
- 大正11年 蒲生郡役所新築移転
- 大正12年 再び八幡町役場になる
- 昭和26年 電報電話局、食料事務所八幡出張所
- 昭和41年 民間所有
- 平成4年 近江八幡市に移管
- 平成5年 修理工事着工
- 平成6年 修理工事完成（明治期の姿を復元）
- 平成10年 登録文化財

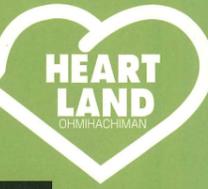
今年に入ってトイレ改修工事により事務所へのご来所の際はご迷惑をおかけしました。

無事、工事が3月上旬に終わり、白雲館内も装い新たに左義長まつりでは多くの市民や観光客の皆様にお立ち寄りいただきました。

貴重な文化財の建物の一画を事務局として
使わせていただいていることに改めて感謝です・・・

はーとらんど通信 vol.7

2018.3月号
（一財）ハートランド推進財団 情報誌



心のふるさとみんなが主役のまちづくり

まちづくりは人づくり

平成29年度 事業実施および支援・後援報告

- 郷土史会（毎月開催）**
白雲塾（毎月開催）
近江八幡市ボランティアセンター運営委員会
ラジオ放送「パチパチはちまん」FMひがしおうみコラボ事業
相談業務（44件 3/14現在）
- 通年**
- 4月 15日 一般社団法人秀次公家臣団屋敷跡竹林を守る会総会
 - 29日 近江八幡タケノコ掘り大会
 - 5月 22日 近江八幡青年会議所月例会
 - 3日 水と緑の環境ネットワークホテル観賞会
 - 6月 17日 西の湖と葦を学ぼう！後援
 - 27日 琵琶湖周航の歌100周年記念事業なぞり周航
 - 15日 豊臣秀次公顕彰法要
 - 7月 16日 ヴォーリス記念音楽会後援
 - 17日 第16回八幡堀魚釣り大会
 - 18日 第6回茶談話カフェ「一人暮らしの備え、近所の助け合い」
 - 9月 12日 第7回茶談話カフェ「老いてますますさかん、シニアライフ旅に行こう！」
 - 10月 2日 第46回八幡塾「戦国時代を考古学する」
 - 14日 第二回近江八幡地域クラウド交流会
 - 7日 健康ポールウォーキング教室
 - 11月 22日 つながろう！市民活動交流会
 - 27日 ポールウォーク & ピクニック in マキノメタセコイヤ
 - 1月 7日 第8回茶談話カフェ「冷え性対策」
 - 22日 第三回近江八幡地域クラウド交流会
 - 3月 10日 第47回八幡塾「ふるさと絵屏風三双お披露目会」
 - 17~22日 水のない水族館後援



タケノコ掘り大会



なぞり周航見送り



魚釣り大会



茶談話会



（一財）ハートランド推進財団 事務局
〒523-0864 近江八幡市為心町元9番地（白雲館内）
TEL.0748-33-5510/FAX.0748-33-5697
E-mail. chukan@npo-omi8man.com

《交通のご案内》

JR 近江八幡駅北口バス乗り場より近江鉄道バス「長命寺」行き→「大杉町」下車、徒歩2分



この印刷物は、経産省の環境保全活動を支援する寄付金付印刷用紙びわ湖環境ペーパーを採用しています。また、適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙を使用し、大豆油インキを含まない植物性インキ及び、有害な廃液を排出しない水なし印刷を用い、その製造及び廃棄におけるCO₂排出量はCO₂を適量削減しています。この印刷物1部あたりのCO₂排出量は上記の通りです。

第46回 八幡塾

「戦国時代を考古学する」

中井 均 教授



平成 29 年 10 月 2 日 (月)

湖東信用金庫コミュニティホールに於いて開催しました。

あいにくの大雨でお足元の悪い中、58 名のご来場を賜

り皆さん熱心に講演に耳を傾けておられました。

考古学というと縄文時代や弥生時代をイメージしがちだけれど、考古学は決して時代を限定するものではなく、歴史を研究する一つの方法論なのだご講演くださった中井先生はお話されています。

山城の調査や研究によって、発掘された「人と関わってきた『モノ』」を分類して歴史を研究するスタイルで、私たちにもわかりやすく歴史を紐解きながらお話してください、受講されたみなさんにご協力いただいたアンケート（回収率 62%）からは「城から当時の政治が見える！素晴らしいことですね」

「考古学についての考え方が良くわかりました。」

「考古学についての考え方が変わりました。」

「幅広い学識で、わくわくさせてもいただけるお話でした。」

ご満足頂いた感想を多くいただきました。

戦国大名の山城から出土した遺物や石垣、礎石から解き明かされる史実は考古学という観点から歴史を知る斬新なアプローチであったと思います。

八幡山城の石垣について興味をお持ちになられた方が多く、自分たちの身近な場所に素晴らしい史跡があることを、再認識させていただく機会となりました。



第47回 八幡塾

『ふるさと絵屏風三双お披露目会』

上田 洋平 助教



平成 30 年 3 月 10 日 (土)

安土町文芸セミナリヨに於いて開催しました。

～あなたを 60 年前の安土の情景へと誘います～

風の強い日ではありましたが晴天に誘われ、127 名のご参加をいただいた安土町商工会と初共催で実施した今回の八幡塾は、安土で 8 年前から取り組まれていた「心象図法の絵屏風」のお披露目会となりました。

地域学がご専門の上田洋平先生のご指導の元、絵屏風製作には多くのお年寄りが幾度も集まり、昔の記憶や思い出を拾い集めて、住民の手で絵にしたもの、それが下豊浦、老蘇、常楽寺地区の三つの絵屏風です。

当財団理事である辻貴史氏が司会進行を務め、上田先生のご講演で「絵屏風」の製作意義や役割をご教授いただき、その地に暮らしてきた住民の皆さんが「絵解き」としてステージで登壇され、絵屏風にたくさん描かれている当時の生活の様子についてや絵屏風への想いをお一人お一人が熱く発表してくださいました。

上田先生はそんな住民の想いにそっと寄り添い助け舟を出しつつ、ちゃちゃを入れつつ、とても柔らかな雰囲気の中での発表となりました。

絵屏風の製作に関わられたそれぞれの地区の皆さんが、共通して仰っていたのは共感を得て製作するまでの苦労は大変なものではあったけれど、出来上がった絵屏風が地域文化の学習教材やまちづくりの一役を担えるものとして活用される喜びでした。

上田先生は「100 年残せば文化遺産、300 年残せば国宝、500 年残せば世界遺産になります」とお話されていましたね。

文芸セミナリヨのホワイエに展示された絵屏風の前で、製作に関わった皆さんやふるさとの情景を懐かしむ皆さんが絵を指さしながら賑やかにそして生き生きとお話される姿に、上田先生がお話されていた「過去を育てて未来を創る」ということの意味が理解できた気がしました。春夏秋冬を描き分けられた、百聞を一見にした絵屏風からは音や匂い、感触や味が感じられるようで、地域文化の伝承に大きな役割を果たす大切な文化財であると感じました。

